

キャンパス・コラム

心配

子供のころ、歯医者に行くのは私にはとても恐いことだった。毎年12月半ばになると、我々兄弟は、母親につれられて歯の治療に行った。歯の治療では嫌な経験があり、私は口にごそしなかったが、10月の終わりが、11月初めになると、だんだんそのことを心配するようになった。もちろん、四六時中というわけではないが、授業中でも、家でテレビを見ているときでも、よくドリルを手にした歯医者さんを想像し、その恐ろしい音までも聞こえてくるようだった。

もちろん、大きくなると、そういう心配こそしなくなったが、振り返ってみると、実際の歯の治療よりも、その毎日の心配のほうが私には毒であり、その心配もまったく無意味だったことがわかる。確かに、心配とはそんなものだが、それでもなお、皆、ある程度は心配するものだ。

教員として、私はよく学生の心配事を耳にする。例えば、学期の初め、「先生、私はこの授業を受けたいが、ついていけないんじゃないか」

などと言われる。それに対して何とすべきかわからないが、普通は励まして、「大丈夫でしょう。心配しないで、頑張ればできるでしょう」などと答える。こんなありきたりのアドバイスでは役に立たないだろうが、心配していてもまた、役には立たないので、せめて少しでも相手の心配を減らせればと思うのだ。

しかし、試験については、何と云えばいいだろう。学生はよく試験について心配し、場合によっては、睡眠不足になったり、病気にだってなるかも知れない。学生時代に、物理学の教員が言った。「試験の数時間前に、リラックスしてビールを一杯飲めばいい」と。まあ、私は試験前のビールを勧めはしないが、心配なら運動でもすればいいんじゃないか。また、音楽が好きならCDを聞けばいい。どちらも心配してばかりよりはいいと思うが、代わりに勉強でもいいんじゃないか。そうだ。試験の前に心配するエネルギーがあるなら、勉強だってできるだろう。

広報委員 ゲイリー・W・キャンター
(経済学部助教授)

最近、何か物を調べようとすると、最初にホームページの検索機能を使う人が増えてきている。確かに情報も多く、調べる時間も短縮され、関連する情報も調べやすいから、ほとんど用が足りてしまう。しかし、検索を続けていくと、一つの疑問に突き当たる。もし仮に目的のキーワード(例えば「中央大学」でホームページの検索を行ったとして、そのキーワード「中央大学」に該当する情報(ホームページ)が見つからなかったとしたら、自分の意識の中から「中央大学」の存在すら消えてしまう人が増えているということなのである。これは、非常に恐ろしいことである。時代の変革期に起こる、大きな「落とし穴」なのである。物を調べようとすると人は、この「落とし穴」に落ちないように、そして自ら大きな「落とし穴」を掘らないために、ホームページ以外にも情報が存在していることを意識して欲しいし、情報を持つている人は、常にホームページへの情報提供を忘れないで欲しいものである。

(広報課)

編集後記

Hakumon
ちゅうおう

2000・6月号(第158号)

2000年(平成12年)6月1日発行

発行 中央大学広報委員会

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉 広報課 ☎0426-74-2146

印刷 泰成印刷株式会社

〒130-0026 東京都墨田区両国3-1-12

電話 03-3631-8141